

令和7年度 第1回八代市立博物館未来の森ミュージアム協議会 会議録

【日 時】 令和7年9月26日（金）14：00～15：45
【場 所】 八代市民俗伝統芸能伝承館（お祭りでんでん館）会議室
【出席者】 協議会委員9名
【事務局】 教育長、教育部次長、博物館館長ほか職員6名
【次 第】

- 1 委嘱状交付
- 2 教育委員会挨拶
- 3 協議会会長挨拶
- 4 議題

【議事並びに発言要旨】

（1）報告事項

- 令和6年度事業報告
- 令和7年度事業報告及び事業予定について
 - （ア） 展覧会活動
 - （イ） 教育普及活動
 - （ウ） 調査研究活動
 - （エ） 資料収集活動
 - （オ） 博物館基本的運営方針の策定について
 - （カ） 改修工事について
 - （キ） 博物館利用者のサービス向上のための準備

会長 ただ今の説明について、何か質問、ご意見等ありませんか。

委員 資料8ページにある松井文庫所蔵名品展の開催については色々のご尽力を
 いただいて改めてお礼を申し上げる。規模としては結構大きな規模の展示と
 なるので、県立美術館としても県内外からたくさんのお客様に来ていただ
 けるようPRしている。八代からもたくさん見に来ていただけるように、ぜひ
 ご協力をお願いしたい。

 また、9ページの教育普及活動についても、たくさんの魅力的な活動を熱心
 に実施されていて大事な取組だと思う。県立美術館でも取り組んでいるが
 中々予算的な制約があって小中学生への実施の数が限定されている。八代市
 では取組の予算や考え方はどうなっているのか。

会長 県立美術館には松井文庫に大変お力添えをいただき、また、今回の展覧会でも
 ご協力いただきありがとうございます。

 お尋ねのあった予算について回答をお願いします。

事務局 教育普及活動については予算も少なくほとんどマンパワーで頑張っている。

学校の方でもバスを頼んで来ていただいているが、学校でバスが手配できない場合は中々来られない状況である。学校から呼ばれたら出来るだけこちらから出向くようにしているが予算的には今潤沢にはない状況である。

委員

バスは学校の予算か。

委員

学校がバスを利用する場合は社会科見学としてその都度保護者からバス代を徴収してバスを手配して博物館やエコエイト等を回って見学している。

委員

県立美術館でもバスをチャーターして学校から来てもらう事業もあるが、1日借りて数万円するので多くは出来ない。遠い学校を選定して行っているが中々数が少ない。今後市町村と協議して連携出来ればと思っている。

会長

予算の確保については事務局も大変だとは思いますが、役所内の文化意識の向上や文化活動の啓発も必要だと思う。

委員

長い間、八代の文化、教育の予算は非常に低かった。一番大事なところに予算が使われていない。博物館の活動もしにくかったと思う。八代は広くて距離があるので学校にスクールバス、または役所内にスクールバスがあれば、必要な度に使えて一番良いと思うので、その体制を考え直す必要がある。教育委員会もやっぱり文化が一番大事だという事で重点的に予算獲得に向けてチームを組んでやってもらいたい。

教育長

教育部の予算獲得についてはこれまでも頑張ってきたが、小中学校のバス代等については保護者に負担をかけている。これらについては、なるべく市の方で出来るようにこれからも予算獲得を目指して努力していく。

委員

八中の時に地域の学習で大変お世話になった。今、六中にいて金剛でも何か地域の学習が出来ないかと思っているが、資料を見ると教育普及活動として来年2月の出前授業に金剛小3年生が22名申し込んでおり、今年の6月の出前講座にも弥次分校が参加をしている。干拓の事かなとは思いますが、どんな内容を3年生に伝授してもらったのかお聞きしたい。

また、県立美術館の松井文庫展の内容に佐野美術館所蔵「松井江」の刀とあるが、佐野は地名なのか。

事務局

静岡県にある佐野美術館である。

委員

なぜ松井家の刀が静岡県にあるのか教えていただきたい。

事務局

3年生の授業内容は干拓の歴史が中心で、まず干拓とは何なのかから始まって干拓と埋め立ては違うなど簡単に説明して、昔の人がこの土地を造るのに大変苦勞をして今に繋がっているという話をした。また、博物館では麦島勝という写真家の写真を多く所有しており、その中に昭和の暮らしや金剛地域の写真も多くあり、そういったものを活用している。

佐野美術館は静岡にある刀剣のコレクターが始めた私立の美術館で、多くの刀剣の名品を所蔵している。「松井江」という刀は元々松井家にあったもので江戸時代に徳川家に献上され、紀州徳川家に嫁入り道具として渡って、その

後コレクターの手に渡って現在佐野美術館に所蔵されているものである。そして、その「松井江」の刀の鞘が松井家に残っており、刀剣というのは焼きを入れる時に反るので1本の刀に合う鞘は世の中に1本しかないが、平成4年度の県立美術館が行った武器・武具調査で、この鞘に松井江の刀を入れたらぴったり合ったという事だった。そういう事もあり現在刀剣乱舞というアニメゲームでも取り上げられており非常に人気のある刀剣である。

委員 金剛での干拓の授業は何年目になるのか。今中学生は授業を受けていないのか。

事務局 コロナの時期に行き始めたのが最初で今年久しぶりに呼んでいただいた。学年に合わせた内容の話をするので是非お呼びください。

会長 稲葉先生には鹿子木文書をはじめ色々とお力添えをいただいているが、何かご意見はないでしょうか。

委員 鹿子木文書については新聞の記事にも掲載され、3千点もの古文書があるが、実際に調査してみると、その内容の充実ぶりに驚いた。鹿子木家で整理してかなり大事に保管していたものを市に寄託されたものであるが、八代市の領域のかかなりの部分は19世紀に干拓で形成されたもので、その干拓の具体的な状況が克明に記録されていて学生たちにも勉強になった。おおよそ3日間で目録が600点ぐらいとれたと思う。これからも何年か継続して調査を行っていこうと思うが、まず目録が出来ないと資料として活用できないので全体を把握した上で細かく分析を行っていく。毎年度、年度末に大学の方で報告書を作成するが、それにその年の分の作成した目録を掲載していくので、それが何年か積み重なった段階で全体がはっきりするということになる。先ほどから話題になっている教育普及にも新しい情報が出てくれば事実に基づいた内容が易しく教育現場に普及される事がなにより大事なので、あらゆる活動の基礎になるのではないかと思っている。もう一つはそのような惣庄屋の資料、またその下に村の庄屋さんの資料があり、そして松井家の家老の資料があつて松井家の藩の資料があるということで、この地域は社会階層の「在」から藩のトップレベルまで貫く資料が揃っていて、こういう地域は全国を見てもなかなかない。調査を地道にすることによって全体性が把握できると思うので楽しみにしている。

会長 大変ありがたい話である。さらに歴史の解説、文化の解説という事で期待をしたい。

委員 前から提案しているが、講義室に展示が出来るようにピックアップレールをつけてほしい。展示室が狭い事もあるし、講義室が展示に利用できるようなると2団体が同時に使えるようになり、入館者が倍になるという利点があるので多角的な使い方を考えてほしい。また、博物館に入ってすぐの妙見祭の行列の展示をでんでん館には移せないのか。例えばクルーズ船が来た時にで

んでん館にあれば、妙見祭の全体がわかると思う。今の工事中の間に移したら一番早いのではないか。次に、エレベーターの件だが、この高齢化の時代に駐車場から守衛室に入って、そこから２回扉を開けなければならない。その度に鍵をかけて、帰る時もまた２回扉を開けてというのはものすごく使いにくい。博物館に行きたくても行けない人も多い。エスカレーターか外付けのエレベーターをつけてほしい。その改善を前から言っているが、今のうちにどうにか考え直してほしい。こういう意見があるという事を市長に言ってください。使う方からの提案をちゃんと考えてほしい。博物館だからと自分の専門分野だけを考えればいいというものではなく、全体的に考えてほしい。以前からあった要望で色々検討はしたと思うが、経緯や考えを聞かせていただきたい。

会長

事務局

熱心に博物館の事を考えてもらってありがとうございます。まず、妙見祭の行列については八代の歴史上非常に貴重なものであり、博物館の展示の色々な導入部分になり、博物館として必要不可欠な展示物だと位置づけているので、引き続き博物館に置いておきたいと考えている。

委員

妙見祭に関するものはたくさんあると思うので、博物館だけで考えるのではなく、でんでん館や他の展示の方法を考えるのもいいのではないか。行列の場所が空くと他の展示がしやすくなると思うので考えてほしい。

事務局

講義室については現在既に２面にピクチャーレールが付いていて展示空間としては非常に良い部屋であると思うが、本来の講義室として使う場面が日常的に発生する。そういう時に展示で使用されているとレクチャーが出来ない問題等もあるので、今後運用方法を検討するが講義室としての使用を優先したい。エレベーターについては今、館内にある二つのエレベーターを取り替えているところであるが、外付けエレベーター等高齢化に対する要望がとても多いのは承知している。今回の工事では他の工事の計画が詰まっていて、新たにエレベーターの工事を付け加えるのは難しい。しかし、要望を色々な方に言ったもらったおかげでエレベーターが必要であると、かなり市役所の中でも問題意識としてみんなで共有するものになったので、これからも引き続き努力していきたい。搬入口については今回貨物用エレベーターを取り替えるがこれまでとほぼ仕組みは変わらないので特に支障が出ることはない。

会長

委員

身障者が入るためには扉がいくつもある。そのあたりに何か工夫はないか。とても不便、行くのを断念する人もいる。今の使い方を改良できるなら改善してほしい。どうやったら良いか考えてほしい。

会長

事務局

守衛の対応も必要だと思う。講義室は展示場としての使用は可能か。はい、しかし基本として講義室として使用したい。

会長

委員

可能という考えか。可能なら有効利用施設という観点から考えるもどうか。どうやったら出来るかどんな調整をしたら出来るか、年中使用するものでは

ないので博物館の講義との相乗効果を含めてもっと広く考えてほしい。最初から出来ませんというのではなくて方法を考えてもらいたい。

会長

展示は調整すれば出来るという返答だったので、展示期間がそう長くなければ使用出来るのではないかと察するが。

事務局

いくつか検討しなければならない課題もあるので、それをクリアできたらということになる。

会長

博物館基本的運営方針について 13 ページに現在の教育振興基本計画があり、15 ページに他市の運営方針が例としてあげられている。双方、内容がたいして変わらないので、もう少し肉づけされるよう期待したい。次回内容が提示されるという事なので、その時にまたご意見を頂戴したい。続いて「博物館利用者のサービス向上のための準備」について何か意見はないか。前に話のあったカフェの出店者についての詳細はどうなっているのか。

事務局

カフェの入店者の募集については既に実施して、数件の入店希望者の最終選定に今入っているところである。これから最終 1 者を選ぶ流れになっている。

教育長

順調に手続きが進んでおり、再開館時にはスタート出来ると考えている。

会長

利用者にとって従来よりも魅力がありお客様が増えるように、館の基準の方針もあるだろうが工夫をしていってほしい。

委員

再三言っているが、事業としてやるには厳しいと思う。だから売り上げの何%とかの使用料はやめていただきたい。よそからカフェを目的として来て博物館まで見られるという認識に変われば人も入りやすい。景観が良いところで食事出来るという魅力があれば博物館の宣伝にもなる。それをふまえて相乗効果でやってほしい。博物館がカフェの売上げで儲けようという考えではなくて逆に貢献したら出店希望者も増えてくるのではないか。再開館後に期待してカフェに行きたいと思う。

～ 引き続き事務局より説明 ～

(2) 協議事項

■ 令和 8 年度事業計画（案）について

(ア) 再開館時期について

(イ) 令和 8 年度の事業計画について

委員

再開館時期について一応 4 月中旬ごろの予定という事だが、空気環境調整期間をしっかりと取るのは当然なので、ぜひくれぐれもしっかり調整期間をとってほしい。もしかしたら行政的には、なるべく早い開館をというのもあるかもしれないが、例えば松井文庫の資料というのは近い将来に一括して重要文化財に指定されても全くおかしくないレベルのものだし、他の収蔵品に関しても絶対間違いのないようにしっかりと調整期間をとって再開館時期を決

めるように強く要望する。

委員

前回、八代市内の子どもたちに昔の道具と未来の道具の絵を描いてもらって館内に展示して親子で足を運んでもらおうというイベントをすると、また来館してもらえるきっかけになるのではないかという提案をしたが、この秋冬から仕掛けをしていったらどうか。忙しいとは思いますが良いスタートがきれるのでは。

事務局

再開館に関するイベントの内容については今考え中だが、意見を参考にして魅力あるものにするよう努めていく。

委員

最近六中の図書館を色々探していたら「城下町やつしろの歴史と文化」という本があり、博物館学芸員が執筆、協力者という形で名前を連ねていて、とてもわかりやすい本である。他にも市の教育委員会で2010年に作られている妙見祭についての本にも多くの学芸員が協力をしている。また、秋の特別展覧会に合わせて発刊される図録も多数ある。学芸員が展示も含めて総括するため作ったと思うが、とても勉強になった。地道な作業だと思うが、これがあると知らなかった事が分かり有難いなと最近つくづく思い、お礼をいいたい。今後も続けて行ってほしい。

会長

学芸員の励みになる言葉を頂戴して嬉しいかぎりである。そういった資料を、もっと広く皆さんに愛していただきたい。貴重なご意見、提案をいただきありがとうございました。

5 館長謝辞

～ 15時45分 閉会 ～